

令和8年度 大河原教育事務所管内

地域連携・社会教育関係職員等研修会

6月3日（水）、大河原合同庁舎を会場に管内地域連携・社会教育関係職員等研修会を開催しました。今年度の研修会は、前半に話題提供、後半に情報交換の2部構成で行いました。

前半の話題提供では、セブチ宿まちづくり株式会社 成田 知将 氏、柴田町教育委員会スポーツ文化振興課 地域学校協働活動推進員（統括コーディネーター） 松田 ゆう子 氏を講師としてお迎えし、「地域全体で児童生徒を育む持続可能な協力関係の築き方」と題して、これまでの経験や立場から見える連携・協働に欠かせない視点について、具体的に分かりやすくお話しいただきました。また、情報交換においては、『『学校の困りごと』解決型グループワーク』と題して、グループワークを行いました。校種や立場、自治体が同じ方同士、異なる参加者同士とグループ編成を変えながら、積極的な情報交換をとおして交流を深め、新たな関係性を構築しました。

○話題提供「地域全体で児童生徒を育む持続可能な協力関係の築き方」（参加者の声）

学校教職員（市町村立小・中学校）

- ・地域とのつながり方やきっかけづくりについて、具体的に知ることができた。当事者の思いや実態など細かい様子まで聞くことができた。
- ・持続可能性、信頼関係が根幹にあることで、子供たちの力を伸ばすことができると再認識できた。
- ・「持続可能な」取組にするポイントがとても参考になった。学校と地域をつなぐコーディネーターが、それぞれのニーズに気を配り、win-winの活動になるよう努めていらっしゃる点もとても勉強になった。
- ・これまで地域連携というと「地域特性のもの」であったり「伝統文化」を体験したりするイメージがあったが、内容はどのようなことでも、児童や地域の方の心が動く活動を行っていくことが大切であると感じた。

行政職・地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター等）

- ・推進員として意識するポイントがとても分かりやすかった。持続可能性を意識するという視点の持ち方やどのような働き方をしているかについての具体的なお話がとても参考になった。



後半に行った情報交換「『学校の困りごと』解決型グループワーク」では、学校と地域の連携体制について再確認するとともに、各学校の地域学校協働活動の様子についてグループ内で話し合いました。お互いの顔を合わせながら、今後も緩やかなネットワークを形成しつつ、持続性のある連携・協働体制を作っていくために必要なことや大切なことを、お互いの立場を尊重しながら確認しました。

○情報交換「『学校の困りごと』解決型グループワーク」（参加者の声）

学校教職員（市町村立小・中学校）

- ・グループの方と話をすることで、顔を合わせて共有する大事さを感じた。また、地域のボランティアへの有り難さを感じるとともに、これからの関わり方を再確認していきたいと感じた。
- ・同じ地域での話し合いでは、普段なかなかゆっくり話す時間が取れないので、伝える機会があるのは、やはり大切だと思った。また他の地域の方と話すと、それぞれの課題や取組があり参考になった。
- ・立場、地域、規模などの違う様々な地域連携に関わる方々から、実際の取組について教えていただくことができた。

行政職・地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター等）

- ・学校の先生が感じる課題やコーディネーターの方から見た課題などを共有できる貴重な機会だった。
- ・先生方から困りごとを聞くことで、行政側から変えてみると、より良くなる場所を知ることができた。他の市町の学校で行っている活動も非常に学びになった。



○本研修のご感想等

- ・久しぶりに講師の皆様や関係者にお会いできて、お話を聞けました。相変わらずの熱い思いに触れ、活力をいただきました。
- ・具体的でわかりやすい事例、現場の声、さまざまな地域課題など、グループワークも多く設けていただき、学びの多い時間となった。とても有意義な時間を過ごすことができた。
- ・温かい雰囲気での研修で、学校のためにこれだけ支えようとしてもらっていることに、純粋に感動した。
- ・今後ともみんなで協力・意見交換・情報交換したいと改めて思った。